１人１台端末の活用による実践事例　（小・中学校用）

学校名	美作市立勝田小学校	実践者名	石田　克久
教　科	学級活動	学年	第３学年
活用内容	文書作成 意見交流	実践日	令和３年 10 月 21 日
		授業活用段階 （岡山県版）	Stage２
単元・内容等	「ジェンダーバイアス」 「女子は」「男子は」という言い方は、性別についての固定的な意識によるものであることに気づくことができる。		

活用の概要（目的・活用場面・使用アプリ名を含む）

(1) 「女子は〇〇」「男子は〇〇」から思いつく言葉を考える。
・児童の様子を見て、考えるのが難しいようであれば、いくつかの具体例を挙げたり、ペアで考えたりさせる。

(2) 本時の課題をつかむ。

男性や女性の性別について考えよう

(3) 職業や家事、服装などが描かれた付箋を仕分ける。
・ジャムボードを使って職業や家事、服装などが描かれた様々な付箋を「男性がすること」「女性がすること」「どちらでもよいこと」の３つの視点で仕分けさせる
・深く考えるのではなく、直感で仕分けることを補説する。

(4) 考えを共有する。（※ペア→集団）
・ペアやグループになり、仕分けした結果とその理由を自由に交流する。
・友達の意見を聞いて、考えを変える（改める）児童がいれば称揚する。
・仕分けされた、それぞれの仕事や役割、服装が「本当に「男」や「女」だけがすることなのか」に焦点化し、全体で話し合う。
・児童の考え（固定概念）を揺さぶるように、職業や家事、服装などの画像を複数用意しておき、話し合いの状況に応じて提示する。

(5) ふりかえる（※個→ペアやグループ→集団）

ジャムボードを使って直感的に自分の考えを整理したシートが、自身の考えを他者に説明したり共有したりする際に、有効に活用された。（指導主事より）

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
ジャムボードを使った事で、資料配布（プリントや絵カード）の時間を短縮が可能となった。自分の考えを画面上で友達と共有する事で、話し合いのツールとして有効だと感じた。	（児童から） 「ジャムボードだと、指でイラスト動かせるので、とても便利だった。」「自分と友達の考えが違っていたことが一目で分かり、話し合いがしっかりできた。」